

# 豆知識② サイト列・サイトコンテンツタイプ・JSON

## ◆SharePoint の近年の動向

SharePointは近年、今迄活用されてきた「クラシックUI」(フル機能)を「モダンUI」(機能限定)に世代交代させる視点で、「Teams」「Powerシリーズ」「モダンサイト」「PowerShell」を発信し、その機能の使用と現在使用中している「クラシックUI」のリソースを「モダンUI」に置換していく事をMicrosoftは強行手段も使いながら推奨して、**ユーザー目線の視点を変える活動**をしています。

### ※強行手段の一例：Sharepoint2010ワークフローの廃止

⇒ これにより、「Power Automate」を使用して再作成を促しています。

### ※「Skype For Business」から「Teams」への切替え促進

⇒ 「Teams」は、新設された「Microsoft365グループ」を使用(詳細なアクセス権限をさせない)

⇒ レイアウトが変更された「新たなサイトの作成」メニュー上段の「モダンサイト」は「Microsoft365グループ」を使用

### ※SharePointの内在不具合(SharePoint グループ管理での課題)対応

⇒ これにより、SharePoint グループでの管理を減らすため、意図的にサイト作成時の画面遷移を変更。

### ※主ブラウザーの変更：「IE11」⇒「Chrome Edge」

⇒ 内在する不具合を抱えながら、半強制的に「Chrome Edge」に変更  
SharePoint管理センターへは、現在「IE11」での遷移はできません。

### ※仕様変更の一例：列のプロパティに「JSON」用書式設定項目の追加

⇒ 今迄のサイト列を含めた列のプロパティに「JSON」用書式設定項目の追加されており、

★**サイトコレクション内のシステム予約的なリソースのサイト列でも書式設定ができるようになった。**

★**サイト列を活用したコンテンツならば、コンテンツ単位のビューや列に書式設定をしなくてもよい。**

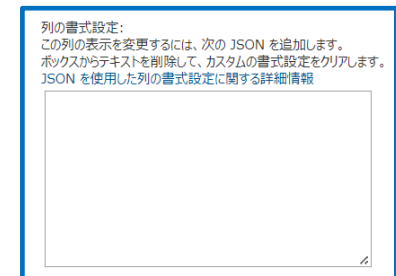
### ※集計列記述内容の制限：URL系や簡単な機能の記述を廃止

⇒ 集計列に構文記述で処理で組み立てられたURL記述などが可能だったが、数年前に廃止。

### ※「モダンUI」の採用されているフォントは、SharePointのデフォルトフォントではない

⇒「モダンサイト」「Teams」「Powerシリーズ」で採用されていますが、通常の日本で使用されてきたIT基盤で使用可能なフォント、SharePoint標準の「MeiryōUI」、日本人向けの「MSゴシック」「MS明朝」など全く無視(設定不可)されています。

組織で、Web公開で使用フォントを制限しているユーザーは、ポリシーを変更しないと使えない。



など、列挙すれば、限りなくクローズアップが可能です。

## 豆知識② サイト列・サイトコンテンツタイプ・JSON

### ◆ SharePoint構成の要素

SharePointが「Webシステム」である事は「Windows Server」配下に「SharePointサーバー」を3層構造で展開したサーバー構成であり、ブラウザを介してサイト情報を閲覧する事から読み取れます。

※3層構造：「Webフロント」(2sv以上)、「APサーバー」(1sv以上)、「SQLサーバー」(2sv以上)を推奨

当然、サーバーシステムなので、「サブレット」(サーバーサイド)、「アプレット」(クライアントサイド)で機能や処理は振り分けられて実行されています。

15年以上前より、「SharePointサーバー」の負荷を低減させるため、「REST.api」などを使ったり、「Client Object Model」で「JavaScript」での処理の記述にて可能な限り、**負荷分散が配慮**された機能や処理の追加手法が追加されています。

また、**SharePoint**というフレームワークを**構成する要素**は、コア部分以外は基本、「C#」を使ってスクラッチで作成された部品は使用せずに、「CSS」と「JS」ファイル(**JavaScript**)をシステムリソースとして展開し、定義コードを解析しながら(インタプリター)で動作する構造になっています。

この構造にて、ブラウザに表示する処理などは接続PCのリソースを活用した負荷加分散にも繋がっています。

しかしながら、「モダンUI」は、「C#」を使って作成された部品を多様しているようで、今迄の恩恵は余り効果を受けた構造でないのか、ブラウザを介してSharePointの**任意ページを完全に表示する迄の時間が数倍遅い**事も現実で、色々なサイトへの遷移も時間が掛かってしまっています。

※同一レイアウトの「クラシックUI」と「モダンUI」の画面上段右の歯車が表示される迄に時間の差異

※「モダンUI」や「Powerシリーズ」などは2週間毎に機能が拡張・変更され、デグレにより数日間機能が使えない事も留意が必要

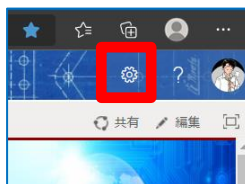
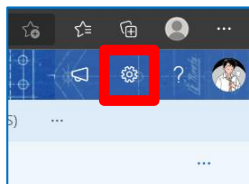
※日本語環境設定での運用は、機能が拡張・変更時の検証が不十分なので、特に注意が必要

この事は、「Chrome Edge」も関連している要素になっています。

※「クラシックUI」のWebパーツの編集操作をやりやすくし、Webパーツの編集操作への懸念抄出

※操作毎に動作が違う、表示画面にレイアウトしたパーツ有無により表示や操作が違う

この点を留意しながら、「モダンUI」を使っていく事をお勧めします。



ChromeEdgeは、メニュー表示の  
▼は左側表示でクリックしにくい

IE11は、メニュー表示の  
▼は右側表示でクリックしやすい



## 豆知識② サイト列・サイトコンテンツタイプ・JSON

### ◆サイト列 について

SharePointでサイトを払い出した直後の展開されているリソースを観ると、標準でサイト列が作成されています。

サイト列は、サイトコレクション内で一意の「Internal Name」で一元管理された列です。

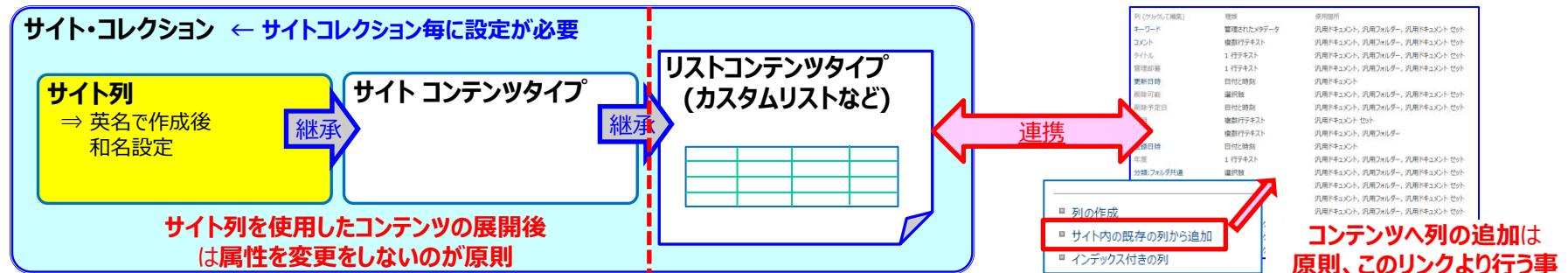
この列は後で説明する標準で準備されている「サイトコンテンツタイプ」、「リストテンプレート」に紐づけされている「リストコンテンツタイプ」は使われており、和名や属性を変更すると継承されたリストテンプレートの列の属性も代わってしまうため、原則、システムリソースとして変更をしないとし、変更する場合はその事を留意してください。

「サイト管理者」は、標準で準備されたサイト列と同様の管理で、ユーザー用途に合わせサイト列を作成する事ができます。

この列もサイトコレクション内で一意の「Internal Name」で一元管理された列でシステム予約という位置づけで和名や属性を変更すると継承されたリストテンプレートの列の属性も代わってしまうため、ユーザーが作成した「サイトコンテンツタイプ」、「リストテンプレート」で生成した「リストコンテンツタイプ」は、変更操作が影響してしまうため、原則、システムリソースとして変更をしないとし、変更する場合はその事を留意してください。

サイトに対し、フルコントロール権限を付与された方は、サイト列に対する操作も可能ですので、最新の注意を払って管理していく事が必要でSharePointで標準提供されるサイト列、特に「Hidden」設定されたサイト列に対する操作を行った場合、最悪、元に状態に戻せなくなる場合もありますので、細心の注意が必要です。

よって、フルコントロール権限を付与する「サイト管理者」、それ以上の権限を付与された「サイトコレクション管理者」の方は、それ相応のSharePointに関する知識を習得された方を前提とした権限という事を理解して、権限範囲内での操作を行ってください。



## 豆知識② サイト列・サイトコンテンツタイプ・JSON

### ◆ サイト列のJSON設定

「モダンなエクスペリエンス」(モダンUI)の採用により、数年前に「サイト列」にも「列の書式設定:(JSONでカスタムの書式設定)」プロパティが追加されました。この事は、ユーザー用途に合わせサイト列を作成する上で、列の表示書式を設定でき、このサイト列を使ってコンテンツを作成した場合は、一元管理された書式定義が反映された列の使い回しで仕様統一にも役立ちます。

「モダンUI」でサイト列を活用してコンテンツを準備する場合は、**このプロパティの活用**をお勧めします。

これにより、展開したコンテンツの列の書式設定を行う手間は不要になり、統一した書式でのコンテンツの展開にも役立ちます。

通常、ブラウザのクリック操作で設定できる書式は、ごく一般的な設定しかできないため、「JSON」を使用した列の書式設定に関する詳細情報」を参照し、より詳細な設定のコードを準備し、用途に合わせたカスタマイズを行う事をお勧めします。

SharePointの**モダンUIを担当されるSME(内容領域専門家)**でサイト構築やコンテンツの作成支援を行う方は、**「JSON」をマスターする事は必須要件**になると考えます。

### 【列の書式設定用の JSON リファレンス】

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/dev/declarative-customization/column-formatting>

上記以外にも色々な視点で、SharePointでのJSONについて情報が公開されていますので、確認が必要です。

例①書式構文リファレンス: <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/dev/declarative-customization/formatting-syntax-reference>

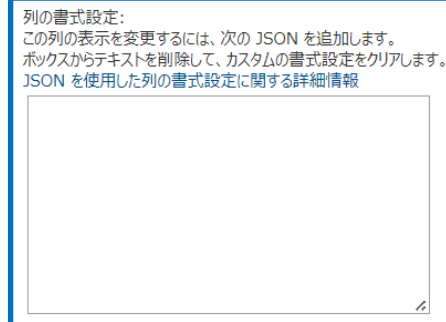
例②グループカスタマイズ構文リファレンス: <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/dev/declarative-customization/view-group-formatting>

このカスタマイズでの検討対応は、「クラシックUI」のWebパーツで「JavaScript」にてカスタマイズしていた内容を「JSON」に置換できるため、重要な課題になるのかと想定します。

また、「REST.api」や「Graph.api」の復帰情報は、この「JSON書式」に類似しているので、それから推測すると、標準的な表示カスタマイズ以外の可能性が見え隠れしていますので、評価・検証が必要と考えます。

SharePoint RESTサービスの概要 ⇒ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/dev/sp-add-ins/get-to-know-the-sharepoint-rest-service?tabs=csm>

★「REST.api」や「Graph.api」は、SharePointのクラシックUIで最大限活用できますが、モダンUIでの活用は制限される事を留意してください。



## 豆知識② サイト列・サイトコンテンツタイプ・JSON

### ◆サイトコンテンツタイプ

サイトコンテンツ タイプとは、リストやライブラリにあるアイテムまたはライブラリのカテゴリに対する、メタデータ(列)、ワークフロー、動作、およびその他の設定をまとめて再利用できるようにしたものです。

サイトコンテンツ タイプを利用することで、情報のカテゴリに対する設定を再利用可能な方法で一元的に管理できるようになります。

サイトコンテンツタイプで設定する内容は、管理するサイト列の設定と並び順、列設定(必須・任意・非表示)です。

### ◆リストコンテンツタイプ

作成済のリストやライブラリに、サイトコンテンツタイプを紐づけする事で、使用するフォームやプロパティ画面の表示する列の設定と並びがリストコンテンツタイプとして複製されます。

その後、作成元としたるサイトコンテンツタイプを変更しても直接継承関係には無い為、リストコンテンツタイプには影響されません。

### ◆サイト列とのサイトコンテンツタイプ・リストコンテンツタイプの位置づけ

リストコンテンツタイプに継承されているサイト列は継承されているため、サイト列の変更は、原則、変更しない事とし、コンテンツの列の属性変更が必要な場合は、コンテンツ内の列定義で行う事で、リストコンテンツタイプへ変更結果が反映されます。

サイト列で準備されてないローカルな列を追加しても、リストコンテンツタイプへ変更結果が反映されます。

但し、ローカル列はサイトで管理されるグローバル列ではないため、他機能との連携で参照できない場合がありますので、留意してください。

